

I 学校研究全体計画

1. 研究主題と主題設定の理由

(1) 研究主題

主体的に考え、ともに学び合う子の育成 ～学びの連続性を目指して～

(2) 主題設定の理由

本校は、「自ら学び、心豊かでたくましく 未来の創り手となる児童の育成」を教育目標に掲げ、「よく考える子」「たくましい心と体の子」「思いやりの心で協力し合う子」を目指す児童像として、小規模校・地域環境の強みを生かした学校づくりを進めている。

これまで、国語科を中心に、「主体的に考え、ともに学び合う子の育成」を目指し、昨年度より、副題を「学びの連続性を目指して」と設定し、国語科での学びを生かす力の育成を図ってきた。

昨年度の成果として、カリキュラムマップを活用することで、各学年でつける力と他教科との繋がりが見えてきた。また、単元構想シートを活用することで、ゴールの姿が明確になり、どの場面でどのような力をつけるのかを意識した授業づくりを行うことができた。そして、デモンストレーションを通して、教師・児童がともに目指す授業像を共有した上で共通実践に繋ぐことができ、話し合い活動の充実を図ることで、学び合うための聞く力・話す力が少しずつついてきた。一方で、児童が自分の学びを自覚し、自ら活用しようとする姿には至っていない点や、ペア・グループ学習に限らず、全体の場での考えの深まり広がり十分でないという点に課題が残った。

そこで、今年度は、昨年度の実践を土台とし、カリキュラムマネジメントの視点で単元全体の流れを大切に授業づくりを行い、視点を明確にした話し合いを工夫する。そうすることで、単元の目標達成に向けて「～したい。」と主体的に学習や活動に取り組むことができる児童の育成を目指す。さらに、対話の中での学び合いから、「できた!」「分かった!」と一人一人に自らの学びや成長を実感させることが、自らの学びを表現したり生かしたりしようとする連続性のある学びに繋がると考える。

2. 研究の内容

(1) 授業づくり

①系統性を意識し、資質・能力を高める単元構想

- ・説明文系統表、物語文系統表を作成する。
- ・年間を通した単元構想をカリキュラムマップに位置づける。
- ・単元構想シートを活用し、つきたい力を明確にした単元全体構想をする。

②学びを広げ深める話し合いの充実

- ・デモンストレーションを行い、目指す授業像や学び合いの姿を共有し、実践する。
- ・「学び合うための聞き方・話し方」について、重点的に取り組む期間を設け、児童の実態に合わせて各学年で目標を立てる。
- ・筋道や根拠を明確にし、考えを広げ深めるための発問や問い返しを工夫する。
- ・児童に考え方の型や話の型を示し、児童は型を使いながら活動する。
- ・ペア・グループ学習や全体での話し合いの場面では、活動の意図（精選、練り上げ、まとめる、多様な考えを出し合うなど）を明確にする。
- ・学習用端末やデジタル教科書を効果的に使用する。

③学びの自覚化

- ・児童を適切に見取り、支援し、児童の成長やついた力を価値づける。
- ・カリキュラムマップを活用し、国語科でつけた力を表現する場を意図的に設ける。
- ・ねらいに応じた振り返りをする。

(2) 学習基盤づくり

①基礎学力の定着

- ・家庭学習強化週間を設け、学年に応じた指導をすると共に家庭学習の習慣化を図る。
- ・思考の変容や学習内容が分かりやすいノート指導をする。
- ・学期に1回、漢字・計算検定を行い、漢字を読み書きする力・計算力の定着を図る。
- ・学力テストの結果・分析をもとに、授業改善をする。

②学習環境の基盤づくり

- ・「木場小スタンダード」を掲示し、授業の進め方を共有する。
- ・デモンストレーションで「木場っ子の目指す授業像」を共有し、教師・児童ともに意識しながら授業に取り組む。
- ・児童とともに学習計画を立て、見通しをもって学習を行う。
- ・デジタル教科書を整備する。

③授業力向上

- ・各学年1回の研究授業を行う。指導案の作成前には、単元構想シートをもとに学年部会で話し合う。また、全員で事前に模擬授業を行うことで、学習課題や展開、発問等の精査を図り、職員の授業づくりへの意識を高める。
- ・教師間で授業交流を行い、授業づくりや指導力の向上を目指す。
- ・計画的にOJTを行い、教職員同士で学び合うことで、指導力の向上を目指す。
- ・学期に1回「子ども授業参観」を行い、デモンストレーションで共有した目指す姿に近づけているかを児童同士で確認する。授業をみる視点を与え、参観学年の良いところを見つけて伝え、自分の学年の良いところや課題にも気付くことで、授業をつくる主体者としての児童の意識を高める。

3. 研究の検証

(1) 授業づくり

①系統性を意識し、つけたい力を明確にした単元構想

- ・研究授業での成果や課題を踏まえ、単元構想シートと指導案の改善案を作成する。
- ・研究授業後には、研究主任と授業者が整理会シートを作成し、成果や課題、共通実践として取り組む内容を職員間で共通理解する。

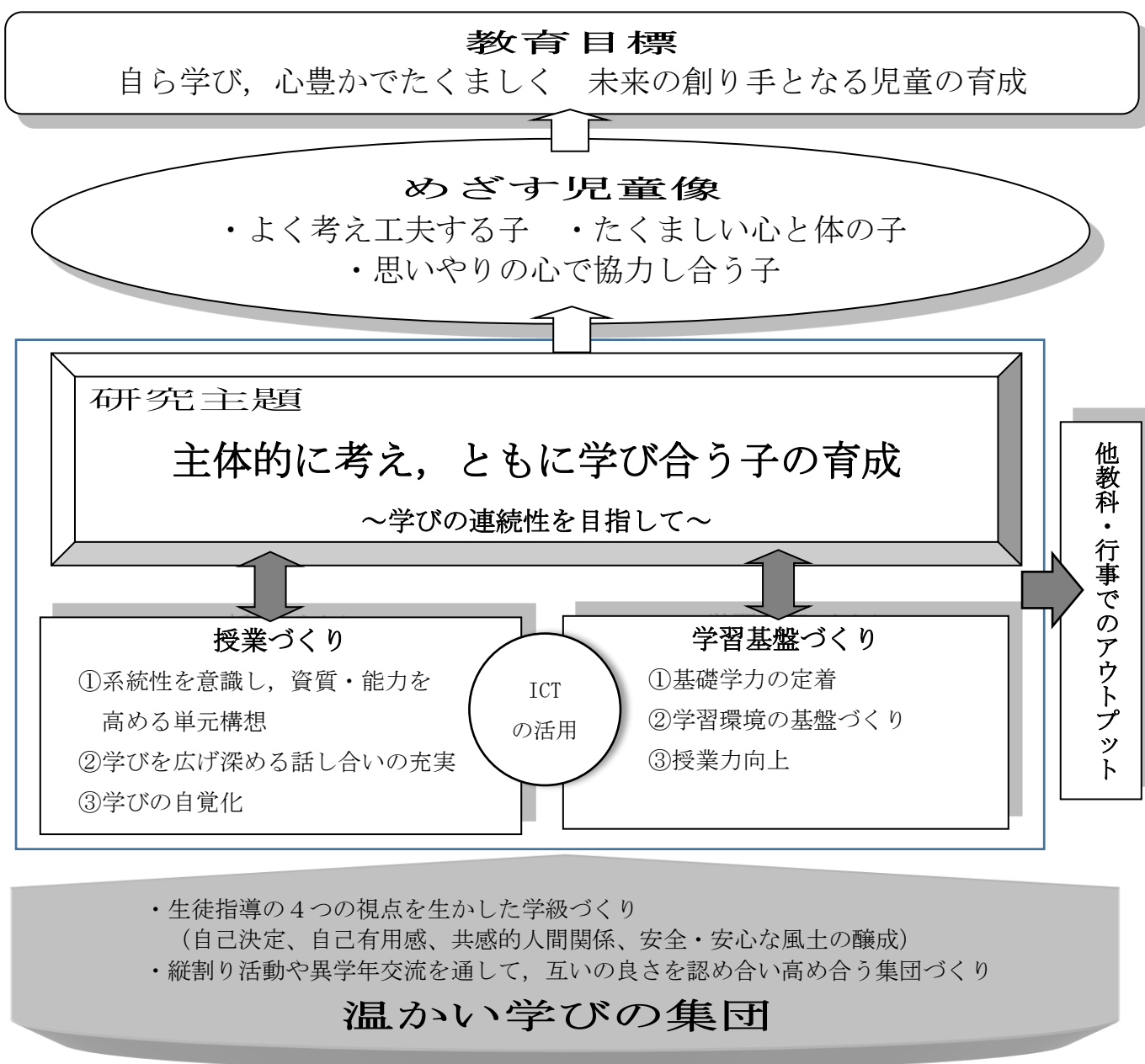
②学びを広げ深める話し合いの充実

- ・教師はパワーアップシート、児童は学級での目標シートをもとに、聞く力・話す力・学び合いについて振り返る。
- ・学校評価アンケート（児童アンケート）の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」に対する肯定的な回答が平均で90%以上。

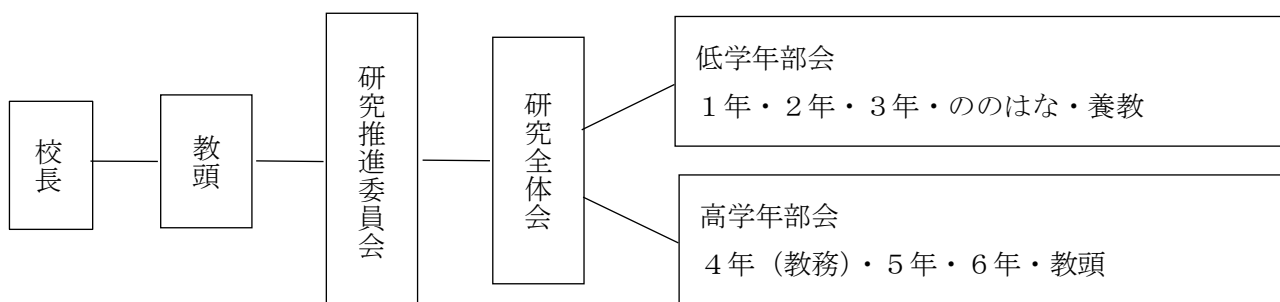
③学びの自覚化

- ・学校評価アンケート（児童アンケート）の「振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。」に対する肯定的な回答が平均で90%以上。
- ・国語科の活用力テストでの学年平均が標準得点以上。

4. 研究全体構想図



5. 研究組織



Ⅱ. 研修計画

★1学年1回の研究授業を行う。学期に1回、授業交流を行う。

月	内容
4月	研究の基本方針・研究主題などの決定，組織づくり，研究計画の決定 授業スタイルの確認，学習規律の確認，研究概要の具体的提案 学習基盤づくり，指導案の書き方 学校力向上プランの作成 学力調査実施4・6年
5月	5年 国語科 教材研究・研究授業「見立てる／言葉の意味が分かること」 学力調査の自校採点・分析
6月	全校集会での6年デモンストレーション 6年 国語科 教材研究・研究授業 「笑うから楽しい／時計の時間と心の時間」 授業交流
7月	3年 国語科 教材研究・研究授業 「文様／こまを楽しむ」 1学期の振り返り 学校力向上プランの見直し
8月	研究の検証・分析・改善
9月	1年 国語科 教材研究・研究授業 「うみのかくれんぼ」 授業スタイルの確認，学習規律の確認
10月	全校集会での5年デモンストレーション 計画訪問 2年 国語科 教材研究・研究授業 「お手紙」 授業交流
11月	4年 国語科 教材研究・研究授業 「友情のかべ新聞」
12月	のはな2年 国語科 教材研究・研究授業 「お手紙」 2学期の振り返り 研究の検証・改善・改善，研究のまとめ提案
1月	研究紀要の作成 授業スタイルの確認，学習規律の確認
2月	授業交流 本年度の振り返り 学校力向上プランの見直し
3月	次年度の方向性の検討